あります。これは当時のいれずみを表していると考えられています。こうした土偶は東海・中部地方に多く、こうした地域との交流もうかがえます。

９. 日本最古の芸術作品

東近江市相谷熊原遺跡から出土した日本最古級（約11,000年前）の土偶は、全長3.1cm、最大幅2.7cm、最大厚2.3cm（胸部）、重量14.6g と大変小さなものです。

約1万年間続いた縄文時代の土偶の出発点となる土偶で、五体が省略され、乳房が膨らむ女性を表す表現は、土偶の用途や縄文時代の歴史を考える上で重要な土偶です。

少し視点を変えてみれば、五体を省略して完成形とする点は現代彫刻のトルソー作品に通じるものであり、日本最古の芸術作品ともいえます。

土偶（東近江市相谷熊原遺跡　縄文時代草創期）

10. 土器芸術

火焔土器を代表とする装飾性あふれる芸術的な土器が縄文時代中期に作られます。その一方で、滋賀県を含めた西日本では、東日本に比べて装飾性が少ない土器が作られます。

近江八幡市竜ケ崎Ａ遺跡から出土した深鉢は、東海地方から運ばれてきた縄文時代中期の終わりの土器です。東海地方との交流を表す一方で、滋賀県では珍しい表現力豊かな縄文人の作品ともいえる飾られた土器です。

縄文土器（近江八幡市竜ケ崎Ａ遺跡　縄文時代中期）

11. 写真で振り返る平成時代の縄文・弥生遺跡の発掘

縄文時代前期の集落跡
（近江八幡市上出Ａ遺跡）

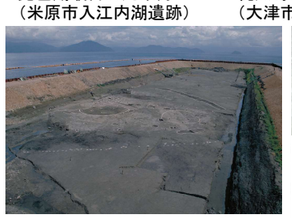
琵琶湖最古の丸木舟
（米原市入江内湖遺跡）

縄文時代のタイムカプセル
（大津市粟津湖底遺跡）

縄文時代の石の祭祀跡
（甲良町小川原遺跡）

縄文時代の貯蔵穴群
（彦根市六反田遺跡）

縄文人が取り入れた弥生の木棺墓
（近江八幡市上出Ａ遺跡）



湖底に沈む弥生時代前期集落跡
（高島市針江浜遺跡）

木偶出土の弥生集落
（野洲市湯ノ部遺跡）

日本最小の銅鐸
（栗東市下鈎遺跡）

東日本と関係の深い銅釧が出土
（栗東市十里遺跡）

埋もれた文化財の話 40
令和元年（2019)10 月
編集・発行　滋賀県埋蔵文化財センター
〒520-2122　滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732－2
ＴＥＬ（０７７）５４８－９６８１　ＦＡＸ（０７７）５４８－９６８２
E-mail shigamaibun-center@guitar.ocn.ne.jp
URL　http://www.shiga-mc.sakura.ne.jp/

平成の発掘成果から滋賀県の歴史を垣間見る
－縄文・弥生時代編―

はじめに

元号が平成から令和に変わり、平成の30年間では国・県事業に伴う多くの発掘調査が行われ、滋賀県の縄文・弥生時代の歴史に新たな知見が数多く加わりました。縄文時代では、貝塚からドングリなどの堅果類がまとまって出土し、全国的にも珍しく縄文時代の食生活が復元された大津市粟津湖底遺跡、日本最古級の土偶や縄文時代草創期の集落が見つかった東近江市相谷熊原遺跡など日本の縄文時代の歴史に一石を投じる調査などがあります。

草津市烏丸崎遺跡をはじめとする琵琶湖岸の弥生時代遺跡からは、集落跡や方形周溝墓群が見つかり、木偶などの珍しい遺物も見つかっています。また、内陸や山間の集落の発見から弥生時代には稲作以外の生業の集落も明らかになり、多様な集落が弥生時代にあったことがわかりました。さらに、日本最小の銅鐸が出土した栗東市下鈎遺跡や弥生時代と考えられる双環柄頭短剣の石製鋳型が見つかった高島市上御殿遺跡など珍しい遺物の出土などもあります。

１. 研究者もビックリ‼　滋賀県最古の竪穴住居群

東近江市の相谷熊原遺跡では、縄文時代草創期の竪穴住居が５棟発掘され、日本最古級の土偶や滋賀県最古の土器・石器が注目を集めました。

これらの遺物以上に驚かされたのが竪穴住居の大きさ（直径６～８m）や深さ（平均約１m）です。

移動生活の旧石器時代から定住し始めた頃の住居が数百年後の栗東市下鈎遺跡や近江八幡市上出Ａ遺跡から見つかった縄文時代前期の竪穴住居と比べても1.5～2倍の大きさという立派さなのです。

なぜ立派な住居を造ったのか、謎であり、研究者も驚かされた発見です。

滋賀県最古の竪穴住居
（東近江市相谷熊原遺跡　縄文時代草創期）

２. 信仰から墓へ

縄文時代中期の終わりから縄文時代後期の初めに中部地方から竪穴住居内の入口付近に土器を埋める「埋甕」と呼ばれる風習が伝わります。この土器の中には胎盤あるいは幼くして亡くなった赤ちゃんを入れるなど子供の成長に関わる風習と考えられています。

長浜市宮司遺跡から出土した埋甕は屋内か屋外のどちらに埋められたかははっきりしませんが、中部地方から「埋甕」の風習が伝わり定着した頃のものです。その後、縄文時代晩期の中頃には、

上：埋甕（長浜市宮司遺跡　縄文時代後期）
下：土器棺墓（東近江市相谷熊原遺跡　縄文時代晩期）

亡くなった子供や大人の骨を入れる土器棺へと性格が変わります。

３．東西各地から運ばれてきた土器

縄文時代の一つの特徴は遠距離に物が動いたり、影響を与えたりすることが挙げられます。滋賀県内の縄文遺跡でも、全国各地から運ばれたものや影響を受けたものが出土しています。

高島市弘川佃遺跡からは、縄文時代後期前葉の九州・四国地方の土器、近江八幡市竜ケ崎Ａ遺跡からは、縄文時代後期前葉の北陸地方の土器や縄文時代晩期中葉の東北地方の土器、彦根市六反田遺跡から縄文時代後期の終わり頃の北陸地方の土器や中部地方の影響を受けた土器、甲良町金屋遺跡から縄文時代晩期終末の中部・北陸地方の土器などが出土しています。この他の地域の土器も県内の遺跡から出土しています。

四国・九州系の土器（高島市弘川・佃遺跡　縄文時代後期）

４. 縄文人と弥生人の出会い

滋賀県内の遺跡から弥生時代初め頃の人骨の出土はなく、滋賀県で最初に稲作を始めた人がどんな身体的特徴をもっていたかはわかっていません。

最初に稲作を始めた場所は、湖南地域の草津市烏丸崎遺跡など琵琶湖に面した水回りの良い場所が選ばれています。一方、この時期の湖東地域の彦根市松原内湖遺跡や近江八幡市上出Ａ遺跡では、竪穴住居や土器棺墓から出土する縄文土器に混じって、弥生土器の壺が出土しています。

こうした弥生土器の存在から湖岸で稲作を始めた人たちが周辺の縄文の村を訪れながら稲作が広がっていった様子を松原内湖遺跡や上出Ａ遺跡が表していると考えられます。

竪穴住居から出土した縄文土器深鉢（上）と弥生土器壺（下）
（彦根市松原内湖遺跡　縄文時代晩期・弥生時代前期）

５. 湖岸の集落・内陸の集落・山の集落

草津市烏丸崎遺跡では、県内最古の弥生時代の竪穴住居が見つかっています。この遺跡では、壺と甕という弥生土器と共に石包丁などの稲作関連の道具だけではなく、縄文時代からの伝統的な打製石斧なども使用していました。弥生時代中期の日野町森西城遺跡では、植物加工用の磨石・石皿や土掘具の打製石斧など縄文時代と同じ道具を使っており、弥生時代に入っても、必ずしも稲作を行っていたとは限らないことを示しています。

また、東近江市の百済寺遺跡では、標高365mの山の中腹から弥生時代の終わり頃の６棟の竪穴住居が見つかり、稲作を基盤とした生活以外の多様な生活が行われていました。

湖岸の竪穴住居（草津市烏丸崎遺跡　弥生時代前期）

６. 溝で囲まれた群集墓

弥生時代になると溝で墓穴を区画した方形周溝墓と呼ばれる墓が見つかります。これらの墓の多くには、木棺と呼ばれる人を葬る棺があることが多く、その中から玉などの装身具が見つかることもあります。

草津市烏丸崎遺跡では、弥生時代中期になるとこれらの墓が連なって造られています。これらの墓には、供献土器と呼ばれる土器や木偶と呼ばれる木製の人形が出土することもあります。

こうした周溝墓は1辺数mから20mを超えるものまで規模の大小があることから、埋葬される人や家族の集落内での力の差を表していると考えられます。

７. 縄文時代のおしゃれ

甲良町小川原遺跡から出土した耳栓は縄文時代通有の耳飾りです。縄文時代の早期・前期頃は石で作られた耳飾りが流行しますが、縄文時代前期以降は土の耳飾りが主流になります。

今のピアスのように耳たぶに孔をあけて、そこにはめ込みます。縄文時代のおしゃれの一端を知る資料です。

８. 出産やいれずみを表す土偶

守山市赤野井浜遺跡から出土した土偶や土偶形容器は、縄文・弥生時代の習俗を読み取ることができる貴重な資料です。

屈折像土偶は腕や上半身はありませんが、しゃがんだ姿勢や生殖器から棒状のものが出ている表現が見られことから、まさに子供が生まれる出産の瞬間を表していると考えられます。こうした土偶は数は少ないですが、全国から見つかっています。この土偶から縄文時代の出産は座産であったことがわかります。

赤野井浜遺跡から見つかった黥面土偶や土偶形容器の口の周辺には、髭のような表現が

山の集落・竪穴住居（東近江市百済寺遺跡　弥生時代後期）

方形周溝墓群（草津市烏丸崎遺跡　弥生時代中期）

上から

横から

土製耳栓（甲良町小川原遺跡　縄文時代後期）

左上：黥面土偶　左下：土偶形容器　右：屈折像土偶
（守山市赤野井浜遺跡　縄文時代晩期～弥生時代中期）